

次期総合計画・都市計画マスタープラン
中央地区まちづくり会議報告書

平成30年9月

中央地区まちづくり会議

目次

(課題と対応方策)

- 1 【重点】都市計画・都市整備・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 道路・交通・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
- 3 住環境・生活環境・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- 4 自然・環境・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- 5 産業・観光・商店街・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- 6 安全・安心・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
- 7 健康・医療・福祉・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7
- 8 教育・子育て・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
- 9 生涯学習・文化・スポーツ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9
- 10 【重点】地域コミュニティ・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10

(付属資料)

- 会議経過・・・・・・・・・・・・・・・・ P 11

1 【重点】都市計画・都市整備

現状と課題

中央地区は市役所本庁をはじめ、様々な施設が集積する官庁街を擁していますが、市体育館の立地している場所や市役所周辺の空き地等まだ活用しきれしていない土地があり、市民サービス向上に関わる機能の更なる充実が求められています。

また、矢部駅は中央地区のJR線との接点として多くの方が利用していますが、交番や南口の駐輪場がないこと、地下道が使いづらいなど、利便性や安全性の向上が課題となっています。

対応方策

現在、市体育館の立地する場所や市役所周辺空き地に、高層施設を建設し、その中に議会棟や自治会館等の機能をいれるなど、土地の有効活用について検討をすすめる。建設後については、各施設を地下道で連絡するなど、施設間の連携を強めて、魅力と利便性を向上させる。また、市役所さくら通りについても、併せて、憩いの場所やプロムナードの併設など、有効活用する。(行政)

市民会館横の市役所駐車場を、高層化により駐車台数の確保をし、一部を公園や住民の憩いの広場として整備するなど、有効活用する。(行政)

- ・ 矢部駅の更なる利便性の向上に向け、南口駐輪場、交番、踏切の整備、複合施設の建設、コミュニティバスの発着、高架化などの整備をすすめる。特に南口駐輪場については、地域からの要望も多く、駐輪場の整備されている北口側に移動するにも、高齢者を中心に地下道が使いにくいという現状があるため、優先的に実施していく。また周辺道路についても、補給廠の一部返還される線路沿いの道路など、計画を策定し整備を推進する。(行政・関係機関)
- ・ その他、中央公民館の早期増改築や、警察署の拡張整備の推進など、様々な機関と連携し、整備を推進する。(行政・関係機関)



相模原市役所



相模原市体育館

2 道路・交通

現状と課題

市役所さくら通りや西門通りなどを始めとして、中央地区にある道路については、十分な幅員の確保ができていない箇所やバリアフリー化されていない箇所、夜間暗い箇所があり、市民が安全で利用しやすい道路整備が求められています。

また、近年、高齢者が関係する事故が増えており、ますます高齢化が進行する中、高齢者を含め住民が、車や自転車に頼らなくて済むような、利用しやすい公共交通体系の確立が課題となっています。

対応方策

- ・十分な幅員のない道路や、矢淵陸橋などの歩道が狭く自転車道の無い道路の整備、生活道路のバリアフリー化を推進し、誰もが暮らしやすい町になるよう、着実に整備を推進する。(行政)
- ・市役所さくら通りや西門通りなどの街路灯の整備・増設を推進し、夜間でも安心して通行できる道路にする。(行政)
- ・自転車通行帯のメンテナンスが行き届いていない箇所、白線等の区画や道路標示が磨耗している部分などを、定期的に修繕し、安全に利用できる道路を維持する。(行政)

- ・国道16号線の矢部駅入口交差点は、朝の急いでいる時間帯など、歩道橋を利用しない人が多く危険であるため、歩道橋下に横断歩道や信号の設置をするなど、対策を検討する。(行政・関係機関)
- ・具体的費用、期間等を盛り込んだロードマップを作成し、電線類の地中化を推進する。(行政)
- ・市役所から淵野辺公園や、矢部駅から富士見・相生方面などといった路線のコミュニティバスの導入や、地区内にタクシー乗り場の設置をし、誰もが利用しやすい公共交通体系の確立を推進する。また、バス停に屋根やベンチ、電子時刻表などを設置し、利便性を向上させる。(行政・関係機関)



市役所さくら通り



中央地区内バス停

3 住環境・生活環境

現状と課題

ごみの収集回数が減っており、一層の適正な管理が求められる中で、ごみの分別や出す時間を守らないことや、指定地域外の人がごみ・資源集積場所を使用していることなどが見受けられ、マナーの向上が課題となっています。

対応方策

- ・ ネット設置や啓発ポスターの掲示など、集積場所の管理をする。(行政・市民)
- ・ 隣接市を含めた住民を対象に、ゴミ出しマナーの啓発を行うなど、マナー向上につながる取組を実施する。(行政)

4 自然・環境

現状と課題

中央地区には、子どもや中高生が思い切って運動やボール遊びができる公園やスポーツ広場が少ないことや、高齢者世帯や独居の世帯が増加していることから、地域の憩いの場・交流の場としての緑地や公園は、ますます重要となっています。

対応方策

- ・ 高根や淵野辺公園周辺などに子どもや中高生が自由に使える公園やスポーツ広場の整備を推進する。また、学校の教室や校庭などの既存の施設を有効活用し、子どもの居場所や遊び場を確保する。(行政)
- ・ 公園や広場に子どもから高齢者まで利用できる健康や体力増進に役立つ遊具の設置を推進する。(行政)
- ・ 公園の設備の点検やトイレ清掃などを強化し、市民が気持ちよく使うことの出来る憩いの場として、適切な管理をする。(行政)

5 産業・観光・商店街

現状と課題

中央地区は JAXA 相模原キャンパスや相模原市立博物館などといった集客施設を擁していますが、PRが足りず、そのポテンシャルを十分に活用できていないことが課題となっています。

また、商店街も年々衰退してきていることや、高齢者を中心として買い物施設までの交通手段がないことなどから、買い物環境の充実が求められています。

対応方策

- ・相模総合補給廠一部返還地や中央地区内バス停、スーパーなどを活用し、JAXA 相模原のPRを強化し、市内外に向けて情報発信をする。また、「宇宙科学研究所」バス停を、施設PRを考えて、JAXA 相模原キャンパスの近くに移動することや、様々な場所から JAXA 相模原キャンパスにアクセスできるようにコミュニティバスの整備を推進する。(行政・関係機関)
- ・JAXA、博物館、淵野辺公園といったエリア一帯をイベント施設や学習文化施設等として包括的に開発することを推進する。また、JAXA の食堂の土日営業、市博物館前の道路の環境を整えるなど、施設の充実化を図る。(行政・関係機関)
- ・買い物施設までのコミュニティバスの整備をすることや、商店街の活性化など、買い物環境の充実を図る。(行政・関係機関)



JAXA 相模原キャンパス

6 安全・安心

現状と課題

中央地区では、国道16号やJR横浜線などの交通網や、多くの人を訪れる官庁街が地域内にあるため、地域内の交通量が多く、通勤・通学時などの歩行者、自転車は危険を感じる事が少なくありません。このような中で、自転車などの一時不停止による事故が発生しており、交通安全の啓発が求められています。

また、青色防犯パトロールの人材不足や地域コミュニティの希薄化が課題としてあり、子どもたちを地域で見守る仕組みづくりや、防災や災害に対する地域全体での取組がこれまで以上に必要となっています。

対応方策

- ・ 幼児・児童・生徒に対する交通安全教育の実施回数を増やすことや、地域全体で日頃から子どもの交通安全教育をすること、自転車のヘルメットの一般義務化など、交通事故に対する意識付けを強化する。(行政・市民)
- ・ 免許返納を条件に、70歳以上のバス代の割引や公共交通機関の助成券の発行などを実施し、高齢者事故対策を推進する。(行政・関係機関)
- ・ 地域で運転手が確保できないため青色防犯パトロール回数を減らした経過があるため、予算を確保し、制度の効果的な周知を図るなど、運転手の確保・育成を強化する。(行政・市民)
- ・ 具体的な経過を示しながら、土地の確保などを推進し、矢部駅に交番を設置する。(行政・関係機関)
- ・ 普段から各自治会で備蓄倉庫の見学や、一時避難場所の確認をするなど、市民一人ひとりの防災意識の向上を図る。(市民)
- ・ 豪雨などの気候変動に備えて、排水設備機能の強化や避難所機能の充実を図る。(行政)



国道16号



青色防犯パトロール

7 健康・医療・福祉

現状と課題

中央地区では、今後の高齢化に伴い、高齢者の日常生活に関わる対策がより重要になるものと予想され、地域コミュニティなどの高齢者の居場所作りをすることや、様々な地域活動への高齢者の参加促進など、生涯にわたって健康で心豊かに暮らせる社会を、行政と地域が一体となつてつくっていくことが求められています。

対応方策

- ・ 地域活動への高齢者の参加を積極的に促すことや、西門散策ロードや市役所さくら通りへのベンチや休憩所の設置など、高齢者の活動の場所、外出のきっかけづくりを推進する。(行政・市民)
- ・ 高齢者が気軽に集え、仲間作りや健康づくりができる地域コミュニティを提供する。地区社協の「ふれあいいいきいきサロン」などをもっとPRし、有効活用していく。(行政・関係機関)

8 教育・子育て

現状と課題

社会情勢等の変化により、近年、共働き世帯の増加や、核家族化が進行している状況を踏まえ、家庭だけではなく、地域全体で子育てに関わっていく環境づくりが必要となっています。

また、学区見直しにより一定の改善はみられるものの、中央小学校と富士見小学校の児童数のバランスは未だ課題としてあり、近年増加している外国人在住者対策と併せて、新たな学校体制の検討が求められています。

対応方策

- ・子どもの登下校時の見守りボランティアを確保し、子どもの安全環境を整えるとともに、様々な取組の中での“ふれあい”を通して、子ども達にモラルや常識などを教える地域教育を実施する。(行政・市民)
- ・地域活動のボランティアへ積極的に参加してもらうことや、空き家や空き店舗を利用した勉強会の開催など、地域の大学生や、教育関係OBなどを有効活用した施策を推進する。(行政・市民)
- ・学校教育の中で、地域コミュニティの重要性を教える授業や、実際に地域と連携したイベントを開催するなど、子ども達・若者に地域を意識してもらえよう取組を推進する。(行政・市民)
- ・富士見小学校、中央小学校、中央中学校を一体化し、小中一貫校とするといったモデル校事業の検討をする。また、外国人児童の受け入れ体制の整備を推進をする。(行政・市民)

9 生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

中央地区には JAXA 相模原キャンパスや相模原市立博物館などといった文化施設があり、他の地域と比べても文化に触れ合う環境に恵まれていると言えますが、この特色ある地域資源が十分に生かされていないという面も見受けられます。

また、高齢者が増加していることや、子どもや中高生が思い切って運動やボール遊びができる公園やスポーツ広場が少ないことから、子どもから高齢者まで幅広い年齢層が、生涯に渡って運動や学習ができる環境が求められています。

対応方策

- ・相模総合補給廠一部返還地や中央区内バス停、スーパーなどを活用し、JAXA 相模原の P R を強化し、市内外に向けて情報発信をする。また、「宇宙科学研究所」バス停を、施設 PR を考えて、JAXA 相模原キャンパスの近くに移動することや、様々な場所から JAXA 相模原キャンパスにアクセスできるようにコミュニティバスの整備を推進する。(行政・関係機関)(再掲)
- ・生涯学習情報の提供や学習相談体制の整備、学習プログラムの充実を図るなど、公民館と地域が連携し、生涯学習事業を推進する。(行政・市民)
- ・高根や淵野辺公園周辺などに子どもや中高生が自由に使える公園やスポーツ広場の整備を推進する。また、学校の教室や校庭などの既存の施設を有効活用し、子どもの居場所や遊び場を確保する。(行政)(再掲)

10 【重点】地域コミュニティ

現状と課題

中央地区では、自治会や子ども会への加入者の減少が顕著となっており、地域活動の担い手の不足など、地域コミュニティの希薄化が課題となっています。

また、人が気軽に集まれる場所の創出や子どもから高齢者まで様々な世代間の交流など、更なる地域活動の活性化が求められています。

対応方策

加入のメリット、未加入のデメリットを理解してもらう取組を推進し、役員の免除など、柔軟な体制の自治会・子ども会にする。また、新築アパートやマンションなどへの積極的な加入への働きかけを推進する。(行政・市民)

地域全体で日頃から子どもの交通安全教育をすることや、子どもの登下校時の見守りボランティアなど、地域コミュニティの中で地域の安全・安心対策を推進する。(行政・市民)

- ・もみの木コンサートのような三世代・各校連携のイベントを中心に、地域の交流の機会を増やし、地域活性化を図る。(行政・市民)
- ・市営団地の空き部屋などを開放し、コミュニティスペースとして有効活用する。(行政)



もみの木コンサート

(付属資料)

会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成30年 5月15日	第1回 ・地域の課題(良くなった・悪くなった点)の抽出	24名
7月17日	第2回 ・課題と対応方策検討(主にハード分野)	20名
8月23日	第3回 ・課題と対応方策検討(主にソフト分野)	18名
9月18日	第4回 ・報告書のとりまとめ、重点項目の検討	19名

